

数々の功績を残された8年間

齋藤教育長「退任式」

11月30日で任期満了を迎えた齋藤修一教育長の退任式が、同日役場本庁で行われました。

齋藤教育長は、平成21年12月1日から2期8年にわたり、町の教育行政を担ってきました。これまで「只見学」の推進や「人材育成ダイヤモンドプラン事業」による町づくりを担う人材の育成、町内全小中学校が登録された「ユネスコスクール」の推進、「只見高校振興対策」や「保育所・小中学校学力向上連携対策」など多くの事業に取り組み、数々の功績を残されました。

退任式では、菅家町長が職員を代



▲退任の挨拶を述べる齋藤教育長

表して「長年のご功績とご努力に対して深く感謝申し上げます、今後も町の発展にご尽力を賜りますようお願いいたします」と送別の言葉を述べました。続けて、齋藤教育長が「自分の理想は、『認め合い、励ましあい、高めあい』ができる職場です。自分の最後の職場となった役場で、理想の職場に出会えました。行政は多くの課題を抱えています。課題があるから前進ができます。これからは様々な課題に対し、3つの『あい(愛)』で町民の皆さまの幸せを求めて頑張ってください。」と退任の挨拶を述べられました。



▲職員に見送られる齋藤教育長

史跡案内標柱の設置などで戊辰150周年を盛り上げる！

第3回奥会津只見戊辰150周年記念事業実行委員会

11月29日、町内の歴史文化団体や観光団体などで組織する「第3回奥会津只見戊辰150周年記念事業実行委員会」が役場で行われ、関係者9名が出席しました。

この実行委員会は、平成30年の戊辰150周年に向けて組織されたもので、只見町における戊辰の象徴的人物「河井継之助」を中心に歴史的意義を再確認し、観光客の誘致や歴史文化の振興につなげる目的で平成29年2月3日に設立されました。これまで実行委員会では、史跡案内標柱の設置や講演会、継之助ウォークなどを実施して

きました。特に、史跡案内標柱は町内全16ヶ所に戊辰所縁の地としての説明などを記し、歴史文化に触れられるよう設置しました(※冬期間は撤去)。また今年度は、史跡案内標柱を巡るガイドブックの作成や福島県南会津地方振興局との共催で行うセミナー、そして第46回只見ふるさと雪まつりでは、「戊辰150周年」をテーマに開催する予定です。

第3回実行委員会では、今年度の実績報告と来年度の活動について確認を行い、今後様々な事業を実施し、戊辰150周年を盛り上げていきます。



▲実行委員会の取り組みを確認する委員の方々



▲町内全16ヶ所に設置された史跡案内標柱

学校と連携した活動を称える

朝日小「父母と教師の会」が受賞

11月1日、県教育委員会が主催する「平成29年度教育・文化関係表彰式」が福島市内で開かれ、朝日小学校の保護者や先生などで組織する父母と教師の会（PTA）が「平成29年度社会教育功績顕著な団体」として表彰されました。今回の受賞は父母と教師の会が行っている、ESD教育に対する学校と連携した全面的な協力体制と、PTA会報紙による広報活動などその長年の取り組みが認められたものです。表彰式では、PTAを代表して会長の目黒夏樹さんが出席され、表彰状と記念品を受け取り、受賞の喜びをかみしめていました。



▲表彰状を手にする目黒夏樹会長(右)と盾を手にする小林校長(左)

主要農産物で交流と食育を推進

只見町と柏市で学校給食食材交換

ふるさと交流都市千葉県柏市と只見町で「学校給食食材交換事業」が行われました。この事業は両市町の主要農産物を交換し、学校給食として提供することで食育の推進や交流の活性化などを図るものです。

11月15日には、町内の小中学校で柏産ブルーベリーの提供を受け、ジャムにしておいしくいただきました。また、柏市では11月21日に柏市立第八小学校の学校給食で、只見産米・食味向上研究会が研究栽培している只見産良食味米が提供され、両市町の食材をとおして食育の推進と交流が深められました。



▲ブルーベリージャムをパンにつけて食べる明和小学校の児童

そばの味を堪能し魅力感じる

「第2回朝日そばまつり」開催

11月26日、朝日地区地域づくり委員会が主催する「第2回朝日そばまつり」が朝日振興センターで開かれ、子どもから大人まで約50名が参加しました。

このそばまつりは、町のそばの魅力を伝え、そば栽培の振興に繋げることを目的に行われており、熊倉蕎麦愛好会の皆さんの協力により開催されたものです。

そばまつりでは、強い風味が特徴の会津のそば粉「会津のかおり」を使用した冷たい盛りそばと温かい田舎そばが提供されました。参加者は、そばの味と香りを堪能していました。



▲そばの味を堪能する参加者の皆さん

只見小と朝日小が入選!

平成29年度県教職員研究論文

12月8日、平成29年度県教職員研究論文で入選となった只見小学校の國分洋克教頭と朝日小学校の小林義弘校長が役場を訪れ、菅家町長に受賞の報告を行いました。

研究テーマは、只見小が「叙述に即して、的確に読み取ることが出来る児童の育成」説明的文章の指導を通して、朝日小は「つながりの中で育む只見愛」児童が主体的につながることを探り、支えて」と題したもので、国語科やESD教育による学習指導の内容でそれぞれ入選しました。

受賞報告では、國分教頭と小林校長から入選の報告を受け、菅家町長がその受賞を称えました。



▲菅家町長(左から2人目)に報告した國分教頭(中)と小林校長(右から2人目)、同席した橋本副町長(右)と増田次長(左)

将来の学校の在り方や児童の教育環境を考える

「只見町立小学校の在り方検討懇談会」報告書を提出

12月20日、町教育委員会において、未来の小学校の在り方を考える「只見町立小学校の在り方検討懇談会」の菅家達朗委員長が、角田行雄教育長職務代理者に報告書を提出しました。

この懇談会は、人口減少や少子化といった問題をかかえる只見町において、小学校の在り方を地域全体で

考えるために3地区の小中学校PTAや学校長、保育所保護者会、区長連絡会など14名で構成する組織を教育委員会に設置したものです。

懇談会では、平成29年3～11月まで全4回行われ、児童数が減少している小学校の現状や課題など将来予想される在り方について意見交換を重ねてきました。

今回提出した報告書には、「少人数であるため個に応じたきめ細かい指導が可能であり、学年を越えて人間関係が親密になりやすい」、「少人数のためクラブ活動の選択肢が少なく、集団で行う合唱・合奏などに支障がある」などといった現状のメリット・デメリットのほか、課題に対する「3小学校や地域との交流機会を増やすことでマイナス面の改善が図られる」などといった提案が盛り込まれています。

そして、「3地区にある小学校は、地域の中で重要な役割を担っていることを懇談会で確認した」としたうえで、「『未来のある児童にとって本当に必要な教育環境とは何か』の議論を継続していく必要がある」とまとめられています。



▲報告書を手渡す菅家委員長(右)と受け取る角田教育長職務代理者(左)

親子で運動あそびを楽しむ

「第2回運動あそび講座」を開催

12月16日、子どもたちの健やかな発育と発達を支援する町の事業「さんさんキッズプロジェクト」第2回運動あそび講座が只見振興センターで開催され、保育所児童や保護者など約30名が参加しました。

講座では、幼少年体育指導士の篠田裕子さんを講師に迎え、幼児期における運動あそびの重要性と、体を動かすことの楽しさを学びました。

篠田さんの講演の後は、長いロープや新聞紙を使った運動遊びを親子で実践し、運動あそびの楽しさを感じながら親子の絆を深めていました。



▲運動遊びを楽しむ子どもたち

地域の魅力・価値を再確認

「只見おもしろ学検定会」開催

12月中、只見町の自然・歴史・民俗文化などの価値を学ぶ「只見おもしろ学検定会」が開催されました。検定会場は朝日振興センターのほか、小学生などを対象に町内3小学校でも行われました。

今年も、検定開始から3年目で初となる「上級」に挑戦した受験者をはじめ、総勢88名が受験し、初級41名、中級17名が合格しました。また、今年度2回目の検定会が3月10日に朝日振興センターで開催される予定で、申込者には「只見おもしろ学ガイドブック改訂版」が贈呈されます。



▲検定を受ける只見小学校児童の皆さん

只見高校は存続できるか？
「緊急教育講演会」を開催



▲平成31～40年度に実施される基本計画の素案を説明する岡崎氏

福島県が「県立高等学校改革基本計画（素案）」を公表したことを受け、12月22日に県教育庁県立高校改革監の岡崎拓哉氏を講師に迎え、「緊急教育講演会」を只見振興センターで開催しました。この素案は、1学年3学級以下の高等学校は統合を推進、1学年1学級本校化など、只見高校の存続に大きく関わる内容でした。

参加者からは、「町は只見高校を地域に残していくということ、地域づくりの一環として振興してきた」、「県土の均等な発展を考えてほしい」など多くの意見が出されました。

施設見学と意見交換を実施
「町区長連絡協議会町内研修会」開催



▲布沢「縁樹の家」で施設の説明を受ける参加者の方々

12月5日、「平成29年度只見町区長連絡協議会町内研修会」が行われ、各地区の区長や町関係者など32名が参加しました。

研修会では、町内にある施設見学と意見交換会が行われました。施設見学では、布沢地区にあるJR東労組東京地本の施設「縁樹の家」と、昨年10月に長浜地区の福祉の里に完成した町内初の障がい者向けグループホーム「こまどり荘」を見学しました。

また、季の郷湯ら里で開かれた意見交換会では、町が各集落に関する事業などについて説明し、各区長と活発な意見交換が行われました。

今季の安全を祈願して
只見スキー場オープン式



▲テープカットでオープンを祝う関係者の方々

12月23日から今季の営業を始める只見スキー場のオープン式が12月22日、同スキー場で行われました。

関係者など約40名が出席したオープン式では、橋本副町長が「只見スキー場は、今年で45周年を迎え、南会津管内では最も歴史のあるスキー場です。家族みんなで楽しめるスキー場運営に努めていきます」と挨拶しました。その後、大谷英明県南会津地方振興局長の祝辞と齋藤邦夫町議会議長の音頭で安全を祈願して乾杯が行われ、関係者のテープカットでスキー場のオープンを祝いました。

ユネスコエコパークの取り組みを確認
「只見ユネスコエコパーク推進協議会」



▲ユネスコエコパークの活動を確認する「只見ユネスコエコパーク推進協議会」

12月8日、「第6回只見ユネスコエコパーク推進協議会」が朝日振興センターで開かれ、関係者約20名が出席しました。

協議会では会長の菅家町長が「引き続きユネスコエコパークを推進していくので、ご協力をお願いしたい」と挨拶しました。その後、国・県・町などの各構成員から「たぐい観察の森整備事業」などを含む16事業が報告されたほか、国内9ヶ所のユネスコエコパーク登録地が一堂に会する「日本ユネスコエコパークネットワーク総会」への参加報告などがあり、ユネスコエコパークの取り組みを確認しました。